

古工建友会50年 団結と発展誓う

大崎・記念全国大会

古川工高（大崎市）の建築科卒業生で組織する「古工建友会」の創設50周年記念・第10回全国大会が11月19日、大崎市古川のアインパルラ浦島であった。

全国の会員約100人が出席。早坂竜太会長は「コロナ禍やウクライナ情勢、経済不安の中でも多くの仲間への帰る場所、心のよりどころが建友会。一丸となつてもり立てていきたい」とあいさつ。講演した伊藤康志大崎市長は「災害時の復旧復興にも貢献された。60年、100年へさらに発展を祈念する」と述べた。

同会は1972年、建築

科長だった故菊池謙さんが卒業生の就職後のフォローを目的に創設。単独科のOB組織では珍しい常時開設の事務所を持ち、全国6支部の会員約2100人への情報発信や交流活動、在校生の就職支援などに当たっている。



50周年を記念し、全国の会員約100人が出席した大会

創設50周年の節目祝う

古工建友会 100人余参加し全国大会

古川工業高建築科卒業生でつくる「古工建友会（早坂竜太会長、会員数約2100人）は19日、創設50周年記念・第10回全国大会を大崎市古川のインパル浦島で開いた。全国6支部から100人余りの会員が参集し、さらなる会の発展を誓い合った。

「大同団結」「互助互恵」誓う

同会は1972（昭和47）年、当時建築科長を務めていた菊池謙さん（2014年3月死去）が創設。卒業生の生涯学習と結束（大同団結・互助互恵）を提唱し、全国の卒業生に組織結成の必要性を



あいさつする第6代 早坂竜太会長

復興へ！
がんばろう
みやぎ

の親睦を深める場として5年おきに開催。この日は開会宣言の後、ステージに飾られた菊池さんはじめ物故会員の写真に黙とうし、先輩たちに感謝を述べた。

早坂会長は菊池さんの功績を紹介し、多くの先輩たちの活躍、われわれ後輩にとつ大きな誇り。コロナ

説いたのが始まり。

現在、全国に6支部を置き、科単独卒業生組織としては全国に類を見ない事務員を雇用した専用の事務所「古工建友倶楽部」を同市古川に開設している。

全国大会は会員たちの

の親睦を深める場として5年おきに開催。

この日は開会宣言の後、ステージに飾られた菊池さんはじめ物故会員の写真に黙とうし、先輩たちに感謝を述べた。

早坂会長は菊池さんの功績を紹介し、多くの先輩たちの活躍、われわれ後輩にとつ大きな誇り。コロナ

の親睦を深める場として5年おきに開催。

この日は開会宣言の後、ステージに飾られた菊池さんはじめ物故会員の写真に黙とうし、先輩たちに感謝を述べた。

早坂会長は菊池さんの功績を紹介し、多くの先輩たちの活躍、われわれ後輩にとつ大きな誇り。コロナ

の親睦を深める場として5年おきに開催。

この日は開会宣言の後、ステージに飾られた菊池さんはじめ物故会員の写真に黙とうし、先輩たちに感謝を述べた。

早坂会長は菊池さんの功績を紹介し、多くの先輩たちの活躍、われわれ後輩にとつ大きな誇り。コロナ



伊藤康志市長が記念講演を行った

ロシアによるウクライナ侵攻など国内外は不安定だが、私たちにはたくさんの仲間がいる。菊池先生たちの思いとともにこれからも会の継続と発展を誓う」と力を込めた。

古川工業高の大高和義校長と同科教諭は同校生徒の部活動や各種大会での活躍、進路状況などを報告した。

また、伊藤康志市長が「大崎市の現状とこれからの展望」古工建友会に期待すること」と題して記念講演。17年に認定された世界農業遺産「大崎耕土」、災害対応と今後の取り組み、まちづくりの方針などについて紹介した上で、「50年を節目に地域や県、東北、全

国においてますます発展してほしい」とエールを送った。

同大会の猪股昭一実行委員長は「コロナの心配はあったが、100人を超える会員が参加し、開催できてうれしい。これからまた50年に向け、大同団結、互助互恵の精神で新たな活動ができれば」と。

古工建友倶楽部の宮澤忠一館長は「コロナ禍の中、体制を整えて開催できた。全国大会は先輩や後輩、みんなに会える楽しみがある。健康には自信があるのでこれからも会の役に立てるよう頑張りたい」と話していた。

席上、感謝状の贈呈もあった。感謝状を贈られたのは次の通り。（敬称略）

▽瀬戸彰夫（本部監事）、宮澤忠一（第3代建友倶楽部館長他）、跡部博（本部監事）、千葉裕一（第5代本部幹事長）、小林恵美子（建友倶楽部館員、事務局員）

古工建友倶楽部の宮澤忠一館長は「コロナ禍の中、体制を整えて開催できた。全国大会は先輩や後輩、みんなに会える楽しみがある。健康には自信があるのでこれからも会の役に立てるよう頑張りたい」と話していた。

席上、感謝状の贈呈もあった。感謝状を贈られたのは次の通り。（敬称略）

▽瀬戸彰夫（本部監事）、宮澤忠一（第3代建友倶楽部館長他）、跡部博（本部監事）、千葉裕一（第5代本部幹事長）、小林恵美子（建友倶楽部館員、事務局員）

古工建友倶楽部の宮澤忠一館長は「コロナ禍の中、体制を整えて開催できた。全国大会は先輩や後輩、みんなに会える楽しみがある。健康には自信があるのでこれからも会の役に立てるよう頑張りたい」と話していた。

席上、感謝状の贈呈もあった。感謝状を贈られたのは次の通り。（敬称略）

税知識普及などに貢献

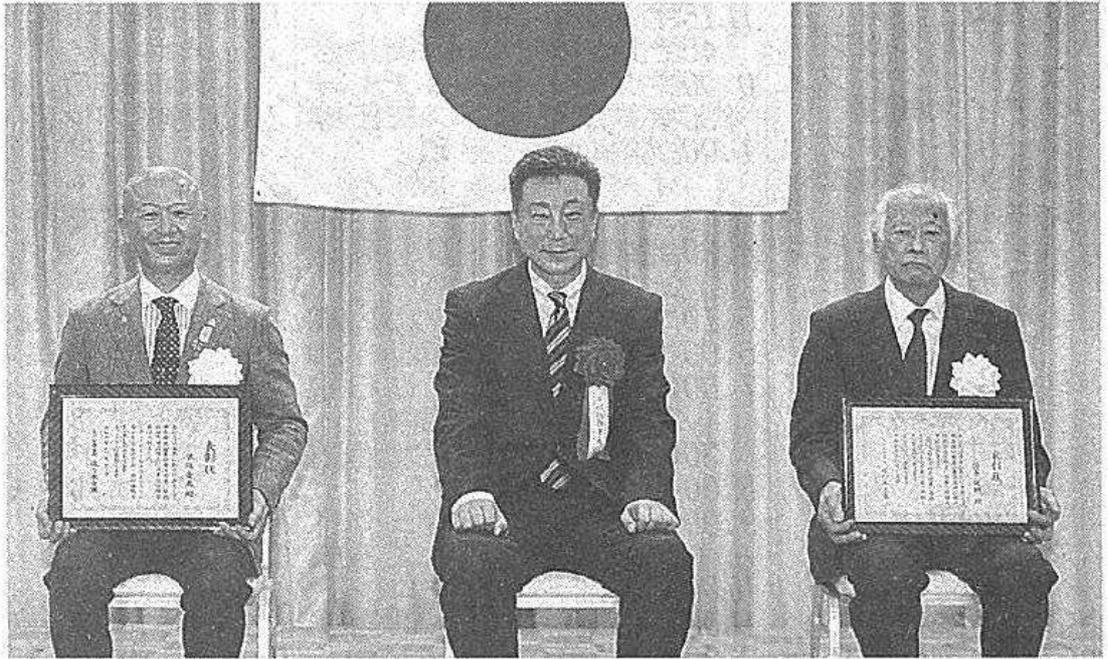
古川税務署 澁谷、早坂両氏を表彰

古川税務署は15日、

2022年度納税表彰式を大崎市古川のグラウンド平成で開き、税知識の普及や申告納税制度の発展、納税意識の高揚に長年にわたり貢献した2人に賞状を贈

った。

表彰されたのは、県青色申告会連合会副会長で古川青色申告会長の澁谷悦朗さんと、県法人会連合会理事で大崎法人会代表理事筆頭副会長の早坂竜太さ



佐々木署長から表彰状を受けた澁谷さん(右)と早坂さん

ん。
式には関係者約20人が出席。同署の佐々木

克寛署長が2人に賞状を手渡し、感謝を伝えた。

第10回大会に寄せて

古工建友会会長 早坂 竜太



昭和47年に創設された我が「古工建友会」は、本年50周年の佳節を迎え、このたび第10回全国大会を開催する運びとなりました。創設者の菊池謙生先生が唱えた「大同団結・互助互恵」の精神、いわゆる「建友会魂」は、今も私達の誇りとして心の中に生き続け、結束の要となつております。平成18年に1市6町が合併して誕生した大崎市も今年で16年目となり、本年4月の市長選によって伊藤康志市

新たなスタートに向けて

第10回大会実行委員長 猪股 昭一



先生が唱えた「大同団結・互助互恵」の精神により歴代の会長・役員・諸先輩方のご努力により繋がれてきた賜物の50周年と感ずる。この数年は新型コロナウイルス感染症の影響により会の活動も停滞気味ではありましたが、50周年全国大会開催に向けて実行委員会を組織し開催できま

半世紀

古工建友会倶楽部館長 宮澤 忠一



創設50周年に当たり、記念すべき第10回全国大会を開催いたしました。各支部から会員皆さま約100名の出席をいただき、お会いするのを楽しみにしております。古工建友会は今古川工業高等学校建築科のみならず、卒業生の会、事務局専用の建物確保し活動している会は、全国の大学・高校を見渡しても皆無です。大いに誇りうる会です。これも口頭、何かに

古工建友会 50年のあゆみ

Timeline table showing the history of the Old Construction Friends Association from 1970 to 2022, including key events like the founding, the first national conference, and the establishment of the club.

Timeline table showing the activities and development of the Old Construction Friends Association from 1999 to 2022, including the start of the magazine and the club's formation.

宮城県古川工業高等学校建築科卒業生の会 古工建友会 祝 創設50周年記念 第10回全国大会

(順不同)

白鳥設計 (Shiratori Design) advertisement with contact info for Atsushi Shiratori.

おき建設株式会社 (Okikawa Construction) advertisement with contact info for Shinji Okikawa.

金青木工務店 (Kanai Construction) advertisement with contact info for Akihiro Kanai.

Howa 豊和建設株式会社 (Howa Construction) advertisement with contact info for Kenji Hara.

株式会社江村工務店 (Egura Construction) advertisement with contact info for Takashi Egura.

蘇武写真館 (Suibu Photo Studio) advertisement with contact info for Kenji Suibu.

原建築設計事務所 (Hara Architectural Design) advertisement with contact info for Kenji Hara.

KANAHARA civil engineering & architecture advertisement with contact info for Kenji Kanahara.

有限会社伊藤鐵工 (Ito Iron Works) advertisement with contact info for Kenji Ito.

株式会社藤山工務店 (Fujiyama Construction) advertisement with contact info for Kenji Fujiyama.

大崎建設職組合 (Oki Construction Workers Union) advertisement with contact info for Kenji Nakamura.

菱中建設株式会社 (Hishinaka Construction) advertisement with contact info for Kenji Hishinaka.

太子堂造園 (Taishodou Landscaping) advertisement with contact info for Kenji Taishodou.

株式会社富士電工 (Fuji Denki) advertisement with contact info for Kenji Fuji Denki.

菅原政隆建築設計事務所 (Sugawara Architectural Design) advertisement with contact info for Kenji Sugawara.

「会員募集」あなたの力を待っている! 建築士会 (Architects Association) advertisement.

AIN PERLA アインペラ浦島 (AIN PERLA) advertisement with contact info for Kenji Ainpelara.

とび・土工工事・防水シーリング工事 有限会社サトー商会 (Sato Kaisha) advertisement with contact info for Kenji Sato.

PC.RECKERS (ピーシーレッカーズ) 菅原政博 (Sugawara) advertisement with contact info for Kenji Sugawara.

宮城県建築士会大崎支部 (Miyagi Prefecture Architects Association Oki Branch) advertisement with contact info for Kenji Miyagi.

古工建友会 創設50周年

古川で全国大会

19日

伊藤康志市長が講演

古工業高等専門学校卒業生でつくる「古工建友会」(早坂竜太会長、会員数約1000)は19日後4時半から、創設50周年記念・第10回全国大会をアインパルラ浦島(大崎市古川)で開く。全国6支部の会員が5年ぶりに一堂に会する。

同会は1972(昭和47)年、建築科第3科長、菊池謙三(さん)を相次いで設立。石巻、栗原、北海道支部も続々と創設。卒業生の生涯学習と結束(大同団結)を掲げ、このうち、大和、仙北、関東の3支部に青年部を設置して組織結成の必要性を説いた。

74年(昭和49)年に業生組織としては全国的に類をみない事務員を雇用した専用の事務所を開設して、建築などで全国で活躍する同会員の情報収集と発信の場の拠点となつていく。

近年は母校との交流事業、現場見学やイン



創設者の故菊池謙三さん



2017年に開催した第9回全国大会



スポーツ交流会で親睦を深める

大同団結 互助互恵

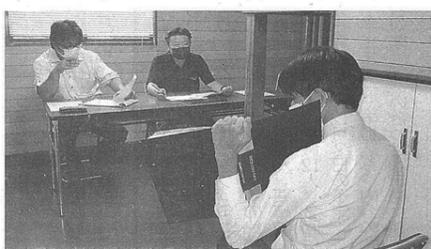


古工建友会 外観

「古工建友会」は、卒業生が中心となり、古川市に創設された。50周年の節目を迎えた今回は、伊藤康志市長が「大和、仙北、関東の3支部」の現状とこれからを語り、100人余りの



建築科生徒を招いた現場見学会



の展望、「古工建友会」が出席予定。に期待すること」と題して講演する。その後、記念撮影と懇親会を控えた。就職を控えた学生にアドバイス

古工建友会憲章

— 1997年11月14日、第5回全国大会採択 —

- われわれ古工建築科卒業生は母校の栄光ある歴史のもと大同団結する。
- われわれは互助互恵のこのころをもって先輩の英知と経験に学び、また後輩の学習と成長を授ける。
- われわれは常に専門分野の実力向上に努め、その力量をもって健康で豊かな生活基盤の創造発展に寄与する。

宮城県古川工業高等学校建築科卒業生の会 古工建友会

祝 創設50周年記念 第10回全国大会

(順不同)

<p>ONO 一級建築士事務所 所長 小野 正則 大崎市古川七日町4番6号(七日町パーキング1F) TEL.0229-23-3688 FAX0229-23-2611</p>	<p>水洗化工事・水まわりのリフォーム 大崎市上下水道工事指定店 巖 古川設備工業 代表取締役 柴山 秀之(建築科32回卒) 大崎市古川休塚字南田4番地 TEL.0229-28-1967</p>	<p>総合建設業 丸か建設株式会社 代表取締役 佐々木 浩章 本社 宮城県加美郡加美町字赤塚37 TEL.(0229)63-2101-FAX(0229)63-2102 仙台支店・青森支店・大崎三本木営業所</p>	<p>【営業品目】日除テント・車輦幌シート・帆布製品製作販売 相澤シート店 代表相澤 洋一 大崎市古川北町4丁目7-7(古川工業高校前) TEL.0229-22-1472 FAX0229-24-0539</p>
<p>よりよい後世を創る。 巧成建設 代表取締役会長 藤原 成一 代表取締役社長 木村 創次 宮城県仙台市泉区野村字菅間前34番地の8 TEL.022-373-9002 FAX022-373-8827</p>	<p>これまでも、これからも、確かな技術で 伸晃電設工業株式会社 代表取締役 佐藤 文利 大崎市古川北極道三丁目13番26号 TEL.0229(24)05429 FAX.(24)0508 E-mail: skd@aioros.ocn.ne.jp</p>	<p>ISHIKAWA CORPORATION Co., Ltd. 株式会社 石川コーポレーション 代表取締役 石川 雅博 〒986-2121 石巻市環波町2丁目1番36号 TEL.0225-25-4305 FAX.0225-25-4306</p>	<p>有限会社 イエミツ 代表取締役 後藤 家光 東京都大田区大森北3-13-11(宮坂ビル7階) TEL.03-3767-7199</p>
<p>建築屋根板金工事一式 有限会社鎌田板金工業 代表取締役 鎌田 孝志(建築科39回卒) 遠田郡美里町牛飼字八幡55-2 TEL.0229-32-2901-FAX0229-32-5515</p>	<p>Bright Wing Station 共に輝き、共に輝き、ふれあいと感動を創造する……未来を創造する総合住宅企業 鶴秀工務店株式会社 代表取締役 鶴谷 勉 加美町字北町三番10-3 TEL.0229-63-5656 FAX.63-5657 http://www.tsuruhide.co.jp</p>	<p>内装工事一式・オーダーカーテン 株式会社 三塚内装 代表取締役 三塚 猛 古川大宮三丁目2-16 TEL.0229-24-0550 FAX.24-0551 0120-024640</p>	<p>孝 設 計 主宰 鈴木 孝悦(建築科21回卒) 〒989-6163 宮城県大崎市古川字竹ノ内249-3 TEL.0229-24-1003-FAX0229-24-3926</p>
<p>【大崎広域中央クリーンセンター(焼却炉)施設】 三菱・佐藤工業・古川土地 特定建設工事共同企業体 三菱重工環境・化学エンジニアリング 東北支店 支店長 鎌川 修 〒980-C013 仙台市青葉区花巻二丁目1番65号 TEL.022(212)3971 佐藤工業株式会社 東北支店 執行役員支店長 堀崎 貴章 〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町一丁目10番3号 TEL.022(265)1670 株式会社 古川土地 代表取締役 早坂 竜太 本社/〒999-6162 宮城県大崎市古川駅前大通2丁目6番16号(1F) TEL.0229(23)8484</p>	<p>創業 昭和47年…「不動産」と「建設」のことなら 株式会社 古川土地 FURUKAWA-TOCHI 代表取締役 早坂 竜太(建築科37回卒) (古工建友会会長) 建設部専事 奥村 廣治(建築科24回卒) 建設部次長 本出 敏行(建築科37回卒) ■本社(不動産事業部) 大崎市古川駅前大通2丁目6番16号 TEL.0229-23-8484 ■建設事業部 大崎市古川鶴ヶ字新江北125番地1 TEL.0229-23-1192</p>	<p>株式会社 仙北建設 代表取締役 高橋 克幸 取締役会長 高橋 孝(建築科8回卒) 営業部長 加藤 隆一(建築科27回卒) 建築部長 高橋 悦郎(建築科39回卒) 建築課長 佐藤 守治(建築科49回卒) 加藤 大輔(建築科63回卒) 白井 怜史(建築科65回卒) 本社/大崎市古川中里3-9-18 TEL.0229-23-7722 仙台(管)/仙台市青葉区名取字方吉前125-1-102番 TEL.022-347-3C17</p>	<p>人・街・くらし 明日のコミュニティ MURATA CORPORATION 株式会社 村田工務所 取締役会長 村田 恭一 代表取締役 村田 秀彦 宮嶋 昭彦(建築科25回卒) 佐々木 修一(建築科45回卒) 前澤 純一(建築科26回卒) 大沼 拓人(建築科51回卒) 都築 隆浩(建築科32回卒) 古内 佑貴(建築科65回卒) 今野 亮一(建築科42回卒) 本社 宮城県大崎市古川江合錦町二丁目6番1号 〒989-6104 TEL.0229-24-1500 http://www.murata-koumushyo.com FAX.0229-24-1511</p>

千葉君夫さん(君鮎)旭日単光章の榮譽に

すし業界発展に尽力

16日 古川で受章祝賀会

大崎市古川幸町のすし店「君鮎」を経営する千葉君夫さん(74)が、2022年春の叙勲で旭日単光章を受章した。宮城県寿司商生活衛生同業組合で副理事長を務めるなど、すし業界発展のため尽力した功績が高く評価された。受章記念祝賀会は16日午後4時から大崎市古川幸町のインパル浦島で開催される。

千葉さんは大崎市古川幸町出身。1969(昭和44)年から与五郎寿司の古川店、荒谷店、仙台市の本店ですし職人として修業を積み、77年の自身の



2022年春の叙勲で旭日単光章を受章した千葉さん

シキを長年使ってきた。近年はササニシキの特長を受け継ぐ大崎市のブランド米「ささ結び(むすび)にぎり」の結むすび(むすび)にぎり、「大崎の米」を結むすび(むすび)にぎりブランドコンソーシアムを立ち上げた。



首相官邸で開かれた「ティスカパー農山漁村(むら)の宝」選定証授与式で安倍晋三首相(当時)と

△構成員としてPRにも尽力。ササ系の食味コンクール「ささ王決定戦」では最終審査用のシャリもにぎっている。18年に同コンソーシアムが「ティスカパー農山漁村(むら)の宝」で選定された際、首相官邸で行われた選定証授与式に同コンソーシアム代表の伊藤康志市長とともに出席した。県寿司商生活衛生同業組合(2001年1



妻の都紀子さんと

経歴

職歴

1964年4月～1967年4月 小野産業(東京都)
 1967年5月～1968年5月 東北ヤクルト
 1968年6月～1969年3月 古川青果市場
 1969年4月～1972年4月 与五郎寿司古川店
 1972年5月～1973年5月 与五郎寿司荒谷店
 1973年6月～1977年9月 与五郎寿司本店
 1977年10月 君鮎 創業

役職

1986年4月 宮城県寿司商環境衛生同業組合理事
 1990年4月 宮城県寿司商環境衛生同業組合副理事長
 2001年1月 宮城県寿司商生活衛生同業組合副理事長
 2016年4月 宮城県寿司商生活衛生同業組合常任理事

表彰

1990年10月 宮城県環境衛生営業市道センター理事長表彰
 1994年11月 全国すし商環境衛生同業組合連合会会長表彰
 2002年11月 宮城県知事褒状
 2003年11月 全国生活衛生同業組合中央会理事長感謝状
 2005年10月 水産庁長官感謝状
 2006年10月 宮城県知事文化の日表彰
 2007年10月 全国生活衛生同業組合中央会理事長表彰
 2008年10月 厚生労働大臣表彰
 2022年4月 春の叙勲 旭日単光章



県寿司商生活衛生同業組合の仲間たちと



おおさき宝大使の横綱白鵬関(現・宮城野親方)とゴルフを楽しむ

月まで県寿司商環境衛生同業組合の大崎支部にあたる大崎寿司業組合で90年4月から2016年3月まで組合長を務めた。第48回全国すし連宮城大会で、その間は県本部の副理事長としても活躍。05年10月に仙台市で開かれた「第48回全国すし連宮城大会」で、同会の大役を務め、大会を成功に導いた。現在も常任理事として、業界発展に力を注ぐ。祝賀会は早坂竜太(古川土地社長)、深瀬和夫(県寿司商生活衛生同業組合理事長)、白幡泰三(同組合副理事長)、加藤憲治(ささ結び産産者)、千田信良(千田清掃社長)の5氏が発起人となり企画。市内外の関係者が多数出席し、千葉さんの栄誉を祝う。

「居久根」「新米」詠む

大崎市 兼題には県内外から600句 俳句大会

「第17回大崎市俳句大会」が9日、沼部公民館で開かれた。事前に寄せられた句から優秀作品を選んだほか、その場でお題を発表する「席題」では、愛好者たちが即興で句を詠み腕前を競い合った。

大崎市俳句協会（京極久也会長）主催、大崎タイムスなど後援。今回は大崎耕土の世界農業遺産認定5年目を記念し、席題のお題に「居久根」「新米」を選んだ。参加者たちは大崎耕土を象徴する屋敷林の居久根やシーズンに入った新米に対する思いを、17音にしたためた。

作品は俳句協会の高野ムツ才会長ら選考4人が作者名を伏せて審査し、それぞれ特選

3句、秀逸5句、佳作7句を選考。特選作には大崎タイムス社賞などの各賞を用意し、賞状や楯、賞品の新米「金のいぶき」5きを贈呈した。

事前に投句を呼び掛けた「兼題」は、季語が入っていれば自由な「当季雑詠」で募った。県内外の愛好者から600句が集まり、こちららも選考4人が特選など入賞作を選んだ。

小中学生対象の「ジュニアの部」は市内11校の35人から作品が寄せられ、市俳句協会顧問の木村螢雪子さんが特選、入選を決めた。

入賞、入選者と受賞作は次の通り。（敬称略、一般の部の秀逸以下は作者名のみ）

【一般の部・席題】

市、佐藤頼夫（登米市）、及川ななを（同）、鈴木喜久郎（涌谷町）

△高野ムツ才選▽特選第1席・宮城県俳句協会賞Ⅱ「参加賞として机上の今年米」上田由美子（松島町）▽田中2席・大崎市賞Ⅱ「小鳥来る居久根に飢餓の板碑あり」京極久也（大崎市）、土屋遊蛸（石巻市）、

市、佐藤頼夫（登米市）、及川ななを（同）、鈴木喜久郎（涌谷町）

市、佐藤頼夫（登米市）、及川ななを（同）、鈴木喜久郎（涌谷町）



会場でお題が出る「席題」で句をしたためる愛好者たち

市、佐藤頼夫（登米市）、及川ななを（同）、鈴木喜久郎（涌谷町）

市、佐藤頼夫（登米市）、及川ななを（同）、鈴木喜久郎（涌谷町）

市、佐藤頼夫（登米市）、及川ななを（同）、鈴木喜久郎（涌谷町）

市、佐藤頼夫（登米市）、及川ななを（同）、鈴木喜久郎（涌谷町）

市、佐藤頼夫（登米市）、及川ななを（同）、鈴木喜久郎（涌谷町）

市、佐藤頼夫（登米市）、及川ななを（同）、鈴木喜久郎（涌谷町）

千葉さん(君鮎)の叙勲祝う

村井知事もサプライズ登場

古川

2022年春の叙勲で旭日単光章を受章した元県寿司商生活衛生同業組合副理事長、千葉君夫さん(74)＝大崎市古川幸町、君鮎＝の受章記念祝賀会は16日、同市古川のアインバル浦島で開かれた。コロナ禍の中、約250人が感染防止策を徹底した上で出席。千葉さんの栄誉を祝うとともに、さらなる活躍を期待した。

さらなる活躍に期待



謝辞を述べる千葉さん。後方の写真で一緒に写っているのは欠席した妻の都紀子さん

発起人5人を代表しあいさつに立った早坂章太さん(古川土地社長は、千葉さんについて「誰にでも心から寄り添い、うれしいことを何倍にも膨らませ、悲しいことやつらいことがあれば家族以上に涙を流して支えてくれる男の中の男」と紹介。勲記の披露後、旧富永小と旧富永中で千葉さんの1学年後輩だった

たという伊藤康志市長、小野寺五典衆院議員、県生活衛生営業指導センターの佐藤勲二郎理事長が「首相官邸と衆院議長公邸にもす



サプライズで村井知事も祝いに駆け付けた

しを出前した日本一の親方」「全国から多くの方がお祝いに駆け付けたのは千葉さんの人柄」「ロコミサイトを介しても、千葉さんの人柄が良いというコメントがたたくさん書かれていた。」「などと祝辞を述べた。

この後、市の観光大使「おおさき宝大使」を務める大相撲の宮城野親方(元横綱白鵬)

の受章を祝うビデオメッセージが上映された。村井嘉浩知事からもビデオメッセージがある。アナウンスされたが、知事本人がステ

ーシ袖から登場するサプライズで千葉さんを驚かせ、「これからもおいしいすしをにぎり、地元経済を引っ張り頑張ってほしい」と

激励した。千田眞凜ちゃん(旧坂奈夏ちゃん)から記念品、娘たちから花束を贈られた後、謝辞に立った千葉さんは「大崎の米(ささ結むすび)ブランドコンソーシアム」が2018年「デイスカパー農山漁村(むら)の宝」選定の際、首相官邸で行われた選

定証授与式に構成員を代表して伊藤市長とともに出席し、当時の安倍晋三首相にささ結でにぎったシヤリを食べてもらったことなど、これまでの思い出を披露。「店を開き11日で45周年となった。たくさんの皆さんに応援してもらい感謝している。

千葉さんは大崎市古川富永地区出身。1977年の自身の誕生日である10月11日、古川幸町に「君鮎」を開店。県寿司商生活衛生同業組合(2001年1月まで県寿司商環境衛生同業組合)の大崎支部である大崎寿司業組合の組合長と、県本部の副理事長を90年4月から2016年3月まで26年歴任。現在も常任理事としてすし業界発展に尽力している。

発起人代表であいさつする早坂さん(左)。祝辞を述べる(左2人目から)伊藤市長、小野寺衆院議員、佐藤理事長



村田秀彦古川商工会議所会頭の音頭で乾杯

男女200人ラウンド

おおさき未来エネルギー杯

第7回おおさき未来エネルギー杯パークゴルフ大会が16日、大崎市尻の加護坊パークゴルフ場で開かれ、男女200人がラウンドした。

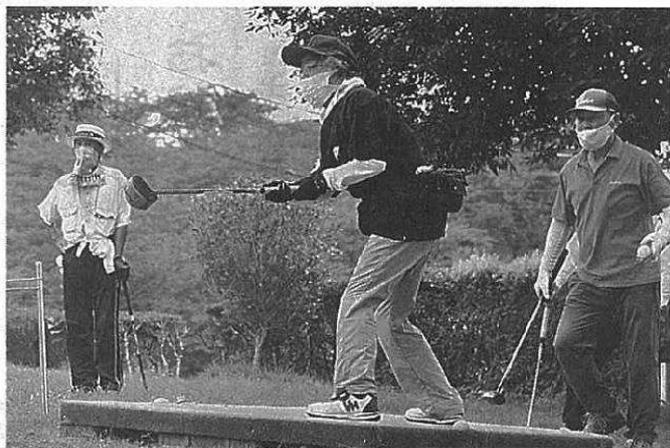
市内4社で出資したエネルギー会社による社会貢献活動。4社のうち古川土地(同市古川)の早坂竜太社長は開会式で「再エネでの地域振興が私たちの目

標。この大会で住民の健康増進もお手伝いしていく」とあいさつした。

大会では4人一組で4コース計36ホールを回り、合計スコアを競った。男子は地元・田尻の門間仁さん、女子は涌谷町の菊地良子さんがそれぞれ優勝。景

品が当たる抽選会もあり、思わぬ「お土産」が参加者を喜ばせた。上位は次の通り。数字はスコア。敬称略。

▽男子①門間仁(大崎市)95②星孝司(登米市)95③伊藤重信(大崎市)95④佐々木俊行(美里町)96⑤佐々木勝俊(涌谷町)97⑥相



ティーグラウンドに「ナイスショット」の音が響く

澤和(登米市)97⑦鹿野哲男(大崎市)97⑧佐藤武雄(登米市)97市 98▽女子①菊地良

子(涌谷町)94②佐竹とみ子(登米市)95③菅原利枝(美里町)96④小笠原ミ子(大崎市)96⑤阿部えつ子(東松島市)98⑥石森美枝子(大崎市)100⑦小野寺ゆり子(栗原市)100⑧首藤洋子(涌谷町)100⑨徳江よし子(栗原市)100⑩小笠原よし子(大崎市)101

災害ごみ個別収集開始

大崎市 高齢者ら安堵の声

記録的大雨に見舞われた大崎市で20日、業者による災害ごみの個別収集が始まった。市は住民自身による処理施設への運び込みを呼び掛けているが、力仕事に困難な高齢者や車が水没してしまった家庭も少なくない。作業員らが訪ねた地区では安堵の声も広がった。

1カ月以内の完了目標に

初日は古川地域で収集作業を実施。地元建築業者でつくる古川建親会28社のうち役員企業5社が参加し、6行

政区計12カ所をトラックで巡りながら水浸しの畳や家具、家電品などを集めていった。この朝、トラックが到着。富士原孝区長は「こ

の地区はお年寄りが多く、住民だけの力では家の庭先に（災害ごみ）出すのが精いっぱい。ようやく来てくれた」とほっとした表情で出迎え、汗だくの作業員に感謝していた。

個別収集開始に先立ち市役所本庁舎前で出発式があり、伊藤康志市長が「被災者の生活再建に力を貸してほし



災害ごみをトラックに積み込む作業員（20日午前9時半ごろ、大崎市古川稲葉）

復興へ！
がんばろう
みやぎ

いどあいさつ。古川建親会の早坂章太会長は「夏場に災害ごみが

山積しているのは衛生上よくない。被災者に安心してもらうよう業界の知識や経験を生かし、いち早く取り組む」と決意を述べた。1カ月以内での収集完了が目標という。

市内で発生した災害ごみは①可燃物と不燃物に分別②市役所本庁舎内の環境保全課に被災証明書を持参し手数料減免申請手続きを行う③ことを前提に、可燃物が大崎広域中央クリーンセンター（同市古川桜ノ目）と大崎広域東部クリーンセンター（涌谷町字関谷沖名）、不燃物が大崎広域リサイクルセンター（同市古川桜ノ目）でそれぞれ受け入れる。

8月末まで。また自宅敷地からの収集を希望する住民は、地元行政区長または同課へ申し出る。問い合わせは市環境保全課へ。電話0222-9(23)6074。

PTCホスピタル
P.T.C. Hospital
0222-2211608
もの忘れ外来
完全予約制

「大崎愛」胸に旧交温める

首都圏大崎 連絡協など 3年ぶり合同で総会

大崎市出身者らでつくる「首都圏大崎連絡協議会」（草刈文幸会長）と「大崎ネットワーク」(村田仁会長)の合同総会が9日、都内で開かれた。コロナ禍で3年ぶりの開催になったことも踏まえ、同市在住者と出身者がそれぞれの近況を語り合い、ともに大崎市を盛り

り上げていくことを約束した。大崎連絡協は市関係の在京組織役員、ネットワークは出身者のほか支援者、すきですは三本木出身者でそれぞれ組織する。

辰司東洋大名普教授が、農泊の目的地としての大崎地方の魅力について大崎に講演した。大崎市「地酒で乾杯を推進する条例」にちなみ、市内の蔵元が造る日本酒で乾杯し、再開。大崎連絡協の会員たちが、関係人口として世界農業遺産の大崎耕土をサポートする「応援団宣言」をした。

ゲストで、現役続行を表明した世界ボクシング協会(WBA)女子フライ級元王者の藤岡奈穂子選手(46)は、大崎市古川出身への寄りを懐かしんでいた。

在京の会員たちは、大崎タイムスなどの記事をもとめた冊子に目を通したり、方言クイズを楽しんだりして古里を懐かしんでいた。

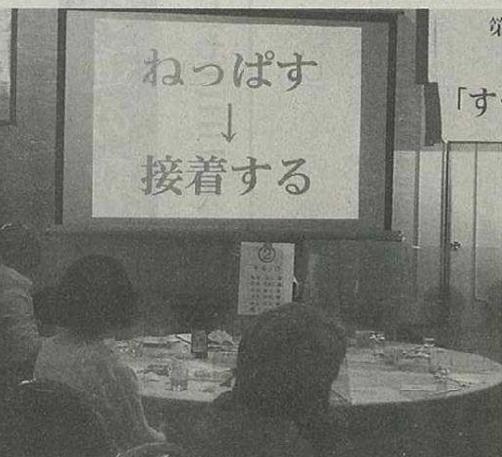
在京の会員たちは、大崎タイムスなどの記事をもとめた冊子に目を通したり、方言クイズを楽しんだりして古里を懐かしんでいた。



あいさつする草刈会長(上)と村田会長



演 青木名普教授が大崎地方の魅力をテーマに講演



方言クイズも会場を盛り上げた



ベルトを手にする藤岡選手(右)と奈夏ちゃん

災害ごみ 収集開始 古川



災害ごみを個別回収する作業員ら＝20日午前9時35分ごろ、大崎市古川稲葉

記録的大雨に見舞われた大崎市で、災害ごみの個別収集が行われている。市は約1カ月間での完了を目指す。

20日は同市古川で収集が始まり、地区の建築業者28社でつくる古川建親会の5行政区12地点を巡って畳や

家電類を回収した。

大江川沿いの稲葉中行政区では約200世帯の3割超が床上・床下浸水の被害を受けた。高齢者や一人暮らしの住民が多く、車が水没した世帯もあり、富士原孝区長(74)は「ようやく回収してもらい、ちよつと安心した」とトラックを見送

った。

建親会会長を務める古川土地の早坂竜太社長は「夏場にごみが出積しているのは衛生上もよくない。被災者が安心できるよう業界の

知識や経験を生かしたい」と話した。市内では鹿島台

地区が17日に個別収集を開始。集めた災害ごみは三本木の仮置き場で分別し、各処理施設に運ぶ。

元横綱白鵬と交流 大崎の早坂さん

娘の治療の励みに

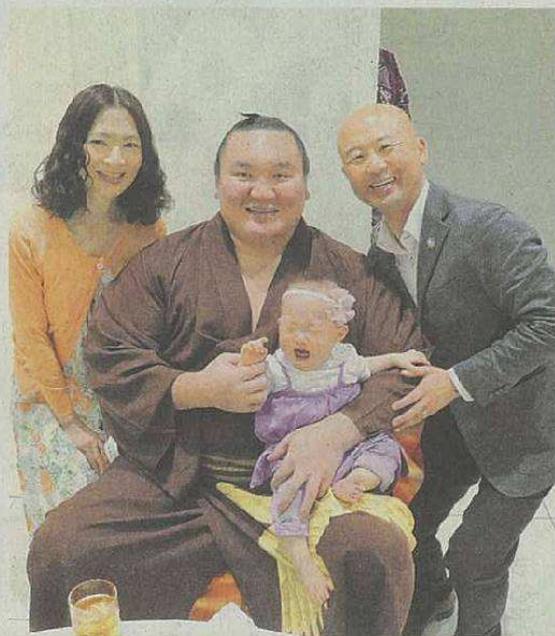
「自分も手術やりハビリでつらい思い、焦りもあり苦勞した。小さい子が苦しんでいる姿に、お互い頑張ろうと」。大相撲の元横綱白鵬の間垣親方が今月4日、観光大使を務める大崎市を訪問した。現役引退と親方襲名を報告する場でもしたしたのは、同市で不動産業を営む早坂章太さん(55)の長女で、病氣と闘う奈夏ちゃん(4)との交流だった。

2011年、東日本大震災の復興支援をきっかけに「おおさき宝大使」を委嘱された白鵬。地元経済人の早坂さんとは立場や年齢を超えて親交を深めた。早坂さん夫妻になかなか子どもが授けられないと知ると、会うたびに妻めぐみさん(47)のおなかをなでた。17年7月、奈夏ちゃんが誕生した。「横綱が『氣』を与えてくれた」。早坂さ

3年ぶり再会 パワーもらう



んは感謝する。すくすくと成長し、「ハック(白鵬)頑張れ」と声援を送るようになった奈夏ちゃん。「急性リンパ性白血病」と診断されたのは昨年4月だった。入院を知った白鵬は、同門の力士との寄せ書きや動画、ぬいぐるみを送って奈夏ちゃんを励ました。



昨年7月、6場所連続休場から進退をかけて臨んだ名古屋場所中日の11日は、奈夏ちゃんの誕生日。自身がトレーナーのケアを受けながら「負けないから奈夏ちゃんも頑張って」と動画で呼びかけた。現役最後となった同場所を、約束通りの全勝優勝で終えた。今月4日、スーツ姿の間垣親方は記者会見に先立ち、早坂さんの会社を訪れた。コロナ禍を挟み、3年ぶりの再会。奈夏ちゃんを抱いて優しく語りかけるとともに、めぐみさんにも「ママもお疲れさま」とねぎらいのハグをしたという。大横綱からパワーをもらい、奈夏ちゃんの治療はこれからも続く。早坂さんは「厳しい勝負の世界に生きながら弱い人に優しい。角界を背負い、批判やプレッシャーを受け止めてきた器の大きさ、本当の優しさを感じた。現役を終えたこれからもずっと応援していきたい」と話す。

●再会した奈夏ちゃんを抱き、早坂さん夫妻と記念写真に納まる間垣親方(左)4日、大崎市の古川土地(右)奈夏ちゃんと初対面した白鵬(中央)2018年、東京都内(ともに早坂さん提供)

宮城県大崎市古川七日町西 再開発がまちびらき

設計=山下設計、施工=橋本店・村田工務所JV

宮城県の大崎市古川七日町西地区第一種市街地再開発事業として建設が進めら

れていた4棟の建物が全て完成し1日、現地で竣工式典が行われた。設計は山下設計、施工は橋本店・村田工務所JVが担当、「いき



関係者らによるくす玉開披

いきと暮らすまちを商・住共存の便利な街へ」をコンセプトとした同事業の完成は、大崎市のシンボルマークとして中心市街地の活性



なのかまち交流プラザ

引き続き小野寺五典衆議院議員、稲田雅裕東北地方整備局長、宮城県知事の代理として参加した遠藤信哉副知事、伊藤康志大崎市

化を促していく。竣工した「なのかまち交流プラザ」で開かれた式典では、冒頭、主催者の佐々木愛一再開発組合理事長が「新市庁舎の建設をはじめ、まだまだこの地域の変化は続く。その変化をより良い方向に導くよう新しいコミュニティをつくっていきたい」とあいさつし、さらなるまちの発展に尽力していくことを誓った。

を促していく。

長、菊地恵一宮城県議会議長、村田秀彦古川商工会議所会頭が祝辞を読み上げたほか、関係者らによるくす玉開披、事業の完成に尽力したコンサルタント・特定業務代行者への感謝状贈呈が行われた。

として位置付けられ、老朽化した建物の建て替えや複合交流街区づくり、にぎわい創出、防災機能の向上などを目的とし、2018年に再開発組合を設立。19年10月に着工し、20年4月に東街区の杜の都信用金庫古川支店が竣工。22年2月に南街区のなのかまち交流プラザ（S造3階建て、延べ

3594・50平方メートル）と北街区2の七日町パーキング（S造4階塔屋1階建て、延べ5481・51平方メートル）260台駐車可能、3月には北街区1に分譲マンションのレーベン古川七日町THE STAYE（RC造14階建て、延べ7166・51平方メートル、78戸）が完成し、まちびらきを迎えた。

が行われた。

同事業は「大崎市中心市街地復興まちづくり計画」で「新たなまち暮らし地区」

再開発事業が完了

古川七日町 西地区 関係者出席し記念式典

大崎市古川七日町西地区再開発事業の竣工記念式典が1日、完成施設の一つ、ななかまち交流プラザ内の地域交流センターで開かれた。古川七日町西地区市街地再開発組合など関係者約100人が出席。事業の無事完成を祝うとともに、かつて県北部最大の商店街として栄えた七日町のにぎわい復活を期待した。

にぎわい復活を期待

あいさつに立った佐々木愛一理事長は「関係者皆さんの理解と協力のおかげで再開発を完了させることができました。今後は電線の地中化などが予定されており、まだまだこの地域の変化は続く。新しい地域コミュニティを目指し、懸命な努力を続けたい」と語った。

小野寺五典衆院議員、東北地方整備局の稲田雅裕局長、遠藤信哉副知事、伊藤康志市長、菊地恵一県議会議長、再開発事業竣工を祝いくす玉を割る関係者

長、古川商工会議所の村田秀彦会頭も「多くの皆さんの思いが結集し再開発が完了した」「市役所新庁舎も11月に完成し、官民協働のまちづくりの成功事例となる」「新しいまちがさらに発展することを



を期待したい」などと祝辞。佐々木理事長や施工業者、来賓代表者らでくす玉を割り、事

業の完了を祝った。再開発事業は、老朽化に加え東日本大震災で被災した七日町の施設建て替えを合理的に進め、中心市街地のにぎわい創出につなげることを狙い、総事業費約69億6000万円をかけて行われた。2015年11月に再開発事業調査に着手し、再開発推進協議会

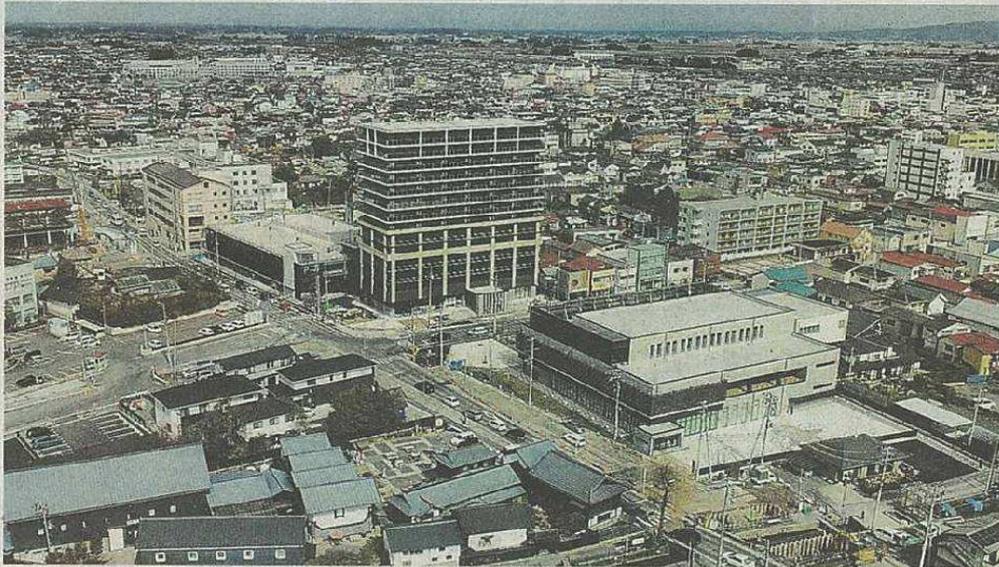
再開発準備組合を経て18年12月に再開発組合へ移行した。権利変換計画認可などを経て19年10月から施設建設に入り、20年4月に東街区へ杜の都信用金庫古川支店の新店舗が完成。その後、北街区1、2と南街区でも急ピッチで建設が進められ、14階建てマンション「レーベン

古川七日町 T.H.E S.T.A.T.E」、立体駐車場「七日町パークینگ」、市中央公民館が機能移転する「大崎市地域交流センター・あすも」も入る「ななかまち交流プラザ」が完成した。

株式会社 大崎建設
PRCホスピタル
Proud of our 100th
もの忘れ外来

七日町西の再開発完工

大崎・古川復興事業、現地で式典



マンション棟(中央左)や、なのかまち交流プラザ(同右)などが完成した大崎市古川中心部。左端には建設中の市役所本庁舎が見える(再開発組合提供)



東日本大震災で商業ビルや店舗が被災した大崎市古川中心部で、復興まちづくり事業として進められてきた「古川七日町西地区市街地再開発事業」が完工し、1日に現地で記念式典が開かれた。

商店街関係者や市、県、国などの約90人が出席。事業主体となった再開発組合の佐々木愛一理事長は震災被害を振り返り「『ここに住んで商いをしたい』との思いから始まった。新し



関係者がくす玉を割って再開発事業の完成を祝った

いコミュニティを目指して努力を続ける」と述べた。

伊藤康志市長は「復興のシンボルの事業。400年の歴史ある七日町が安全で美しい街へと再生、創生されつつある。完成を機に

一層の中心市街地活性化に取り組みたい」と強調した。

再開発は2019年に着工し、市役所東側の約1・2段に市地域交流センターが入る「なのかまち交流プラザ」、商業施設棟、14階建てマンション、駐車場棟の延べ床面積計約1万7000平方メートルを整備した。事業費は約69億5900万円。

周辺では市役所新庁舎が11月末完成、来年5月の使用開始を目指して建設中。年度内には緒絶橋架け替えを伴う県道整備、電線埋設化も完了する予定。

古川七日町西地区を再開発

いきいきと暮らすまち

商・住共存の便利な街へ

市街地のにぎわい創出

大崎市古川七日町西地区の市街地再開発事業で計画された全施設が完成した。2年早く完成した東街区に続き、北街区1、2および南街区の施設も3月末までに完工した。記念式典は4月1日午後1時半から、完成施設の一つ、なかまち交流プラザ内に入る同地域交流センター1階で行われる。

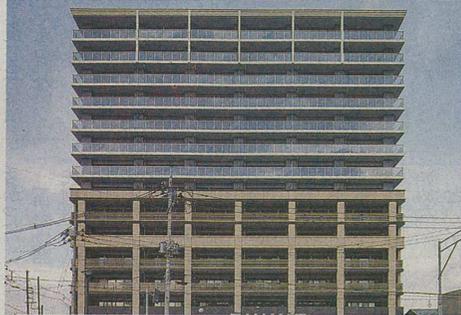


再開発事業が行われた七日町西地区

老朽化した建物の建て替えを合理的に進めるとともに、中心市街地のにぎわい創出、良好なまちなか居住環境整備を図るなどが事業の目的。2015年11月に再開発事業調査に着手し、16年6月に再開発推進協議会を設立。

17年1月に協議会を解散して再開発準備組合となり、市が市街地再開発事業などを都市決定したことを受け、18年12月に再開発組合へ移行。権利変換計画認可などを経て、19年10月に施設建設へ着手した。

北街区1に整備した14階建てマンション「レーベン古川七日町THE STATE」は、中心市街地の地権者住戸6戸を含め78戸が整備され、2月までに完了した。1階部分は共用スペースと商業・業務施設。北街区2の「七日町パーク」は、屋上階を含め4階建て258台分の立体駐車場、マンション入居者や施設利用者が利用する。南街区の「なかまち交流プラザ」は、同市中央公民館が機能移転する「大崎地域交流センター」が1階南側と2階の部分に入る。センターの愛称は「あすも」。センターの開所式は2日午前8時半から現地で行われる。1階北側は商業施設、3階は業務施設となる。



レーベン古川七日町 THE STATE



七日町パーキング



杜の都信用金庫古川支店

古川七日町西地区市街地再開発組合

理事長 佐々木 愛一

このたび大崎市古川七日町西地区第一種市街地再開発事業により4棟の建物が竣工しました。本事業が無事整備完了に至りました。近隣地域の理解と関係者皆様のお力

位置づけられて以来の都市決定を受け、古川七日町の地権者や大崎市をはじめ関係者の方々の理解と協力のおかげで、平成28年6月に再開発協議会を発足し、計画の検討を繰り返して、準備組合設立の認可を得ました。令和元年に事業計画変更、権利変換計画認可の後、既存建物の解体工事、施設建築物新築工事を着工しました。

工事期間中には、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が発せられた期間もありましたが、古川七日町に新たな街の発展とにぎわいをつくり、中心市街地の活性化のため、なお一層の取り組みを推進してまいります。

「THE STATE」が完成し、再開発の大きな一歩を踏み出しました。これから古川七日町のまちづくり、商店街の発展とにぎわいをつくり、中心市街地の活性化のため、なお一層の取り組みを推進してまいります。引き続き皆様方からのご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。



綿密な計画で近隣への配慮徹底

宮城県大崎市古川七日町西地区再開発事業(再開発組合)

足場組立工夫し工期短縮

宮城県北部に位置する大崎市の中心市街地である古川七日町で、にぎわい創出の起爆剤となる再開発事業が進んでいる。地域交流センターやマンションなど複数棟を同時に建設している現場では、近隣住民への配慮、第三者災害の防止、安全性の確保に向けて綿密な計画を立て、細心の注意を払い作業が続く。ラストスパートを迎える現場で指揮をとる橋本店・村田工務所J.Vの佐藤克也所長に、施工上の工夫や課題解決策などを聞いた。

地域交流センター棟



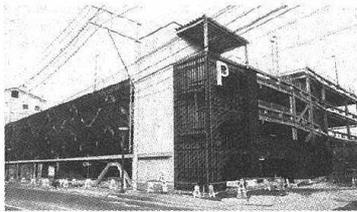
設計・監理＝山下設計
施 工＝橋本店・村田工務所 J V

七日町は、かつて多くの店舗が立ち並ぶ商店街としてにぎわったものの、商業娯楽施設の郊外化が進んだことなどから空き店舗が増加し次第に衰退。そこで、老朽化した建物の建て替えや複合交流街区づくりを進め、にぎわい創出、防災機能の向上などを図るため、地権者らで組織する再開発組合(佐々木愛一理事長)が同事業を計画した。調査業

務や事業計画の変更などを経て、19年10月に着工。設計・監理は山下設計、施工は橋本店・村田工務所J.Vがそれぞれ担当している。事業では、七日町4および11などにあつた老朽化建築物、全28棟を解体し、その敷地約1・2haを北街区・南街区・東街区の3ブロックに分割。東街区には先行して、杜の都信用金庫古川支店(20年4月開店)



マンション棟(写真左)と駐車場棟



が整備され、引き続き北街区のマンション棟(RC造14階建て、延べ7166・50平方メートル)と駐車場棟(S造3階建て、延べ5481・04平方メートル)の台駐車可能)や南街区の地域交流センター棟(S造3

階建て、延べ3594・50平方メートル)を整備している。トータルで延床面積が1万7102・09平方メートルにおよぶ大プロジェクトだ。現在の進捗率は約98%

(2月8日時点)。2月末引き渡し予定の地域交流センター棟は完成し、駐車場棟は外構の最終仕上げの段階。3月末引き渡し予定のマンション棟は、外構とエントランス周辺の仕上げを一部残すのみとなっている。

工法変更で 天井を軽量化

再開発事業の中でも特に多くの人を集める効果が期待される地域交流センターは、エントランスが1、2階にまたがる吹き抜けとなっており、開放感が溢れる。現場を指揮する佐藤克也所長は、「天井が高いため、安全性の面から仕上げ材を軽量化にした耐震天井となっている」と説明。過去の災害時の天井崩落事例では、天井材が重いことが原因だったことなどを踏まえ、当初予定



していた岩綿吸音板十フラスターポートから一層軽量化が見込める岩綿吸音板直張り工法への変更を提案。想定していた約3分の1の軽さを実現し、多くの人が集まるエントランスの安全性を確保した。

マンション棟建設に当たっては、作業スペース確保

問題なく施工できた」と振り返る。また同事業は、3棟同時施工であるほか、付近では下水本管工事や橋の架け替え工事など多数の工事が同時期に行われており、近隣への配慮が必要不可欠だった。「資材搬入は歩行者の多い時間を避けるなど、第三者災害の防止に努めた。さらに、各工事で道路を使用する時間等を協議し決めた」ことで近隣への影響を最小限にとどめた。

工事はラストスパート。完成に向けて佐藤所長は「使いやすく、引き渡した後に絶対に不具合が起きないような建物を目指して施工している。そのため、設計図に無い事でも必要なことを付け加えていくのがわれわれの役目だ。最後まで気を抜かず作業に当た

る」と意気込みを語った。